

こんにちは、Cornell 大学 Chemistry and Chemical Biology で4年目半ばを迎える鄭です。研究内容は年々バイオ色を増し、授業もTAもないため化学科の本拠地がある建物に行く機会もめっきり減り、自分が果たして本当に化学科なのかアイデンティティの危機を感じています。化学科の集まりに顔を出すことも最近怠っているので、同期の誰がPhDプログラムを去ったか把握しきれてないし、私がまだいることを知らない人もいるんじゃないかな。暖かい夏に外へ出て友達が増え、寒い寒い冬にラボに引きこもって友達が減る、東海岸あるあるだと思います(多分)。そのサイクルを毎年繰り返すうちに、学内の友達がゆるゆると減り、学外の友達は学会などで増えていくようです。そんな寒い冬のラボ引きこもりまっ最中に書くこの報告書、ひどく内省的なものとなることもやむを得ないというものです。

## 1. 朝型生活の意外な欠陥

前回と変わらず、23時半就寝7時起床、8時から18時が労働時間という生活を続けています。去年までは「夜型に引っ張られていく生活リズムを日本帰省で時差ボケとともにリセットする」の繰り返しでしたが、この1年を見ると完全に朝型で固定されたようです。前回の報告書で朝型生活の利点を列挙していましたが、最近になって重大な欠点が判明しました。夏が終わって日照時間が減ると、その影響をモロに食らうということです。このへんは夏だと夜9時近くまで明るいので、7時起床だと実に14時間も日光を浴びることができます。しかし、冬は7時に起きてもまだ外は暗く、4時半には日が暮れるので、太陽を拝む機会はたったの7時間。それも晴れていたらの話で、外が曇っていては叶わぬ話です。去る11月は殊更曇りの日が多く、1週間のうちで太陽(の片鱗)を拝めたのがたった2回という時期もありました。「今日太陽見た?」「見てない」と隣のポストクとやりとりする日課にも飽き、気分が滅入って滅入って仕方ありませんでした。去年までの自分にはなから夜型であれば、太陽への依存度が恒常的に低いためか、日照時間の変動による影響も少ないように思います。

## 2. ようやく出た論文

この1年間取り組み続けていた初めての第一著者の論文を、ついに出すことができました。思えば長い道のりで、去年の年明けに原稿を書き始め、春先に他の実験の成果が出るまで待ちたがる指導教官を説得し、夏に投稿し、秋にはレビューアークコメントに応えるための実験に苦戦を強いられました。どうにか3カ月の期限内にrevisionを提出することができました。それが無事受理されたとの知らせを少し早いクリスマスプレゼントとして頂き、第一次論文闘争は終わりを迎えました。自分の研究成果を早く出版したいのに、研究の本筋と関係ないような実験やデータを求められたり、図表や文章の体裁を整える作業にきりがなかったり、自分にとっては初めての経験にうんざりすることもありましたが、指導教官がさくさくとこなしていくのを見ると私も早くこ

のプロセスに慣れたいものだと思います。しかし、そのプロセスに慣れるためには論文を出さねばならず、論文を出すためには実験データが必要で、実験データを得るためには今やっている実験条件の最適化が必要で…。言うのは易くとも、いざ実現しようとするとは難しいものです。今は理論的や経験的に得られた仮定が実験で証明できない状態で、上手くいかない原因が分かれば対処のしようもあるものの、まだその原因の答えを探しパソコンと実験機を交互にうろうろする日々です。原因を究明したいという好奇心が今のところ主な燃料ですが、それがいつ尽きるともわかりません。せめて、規則正しい生活と適度な息抜きでボディ（体）とエンジン（心）を良い状態に保つことで、出来るだけ燃費を上げていこうという方針です。

### 3. 卒業まで（願わくば）2年を切って思うこと

私の学科の平均 PhD 取得年月は5年半。私は今3年半経ったところなので、あくまで、あくまで願わくばですが、卒業まで2年を切りました。折り返し地点もだいぶ過ぎてしまった。研究を始めてから1報目を出すのに3年近くかかったのも、これからはもっとペースを上げないといけません。1報目を書く経験を通して、大まかな部分ではプロジェクトの見通しの立て方や論文に必要な実験データの組み方、細かな部分ではそれぞれの実験の進め方や原稿の書き方などを学んで、研究者としてそれなりに成長してきたと思うので、きっと今後は論文を出すペースも早まるだろうという希望的観測を胸に、サイエンスの神様に祈りつつ頑張ります。努力をしても必ず実るとは限りませんが、自分が努力できる人間だという事実は残るので。

\* \* \*

予告どおり、とっても内省的、というか気持ち暗めの報告書となってしまった気がします。それでも一応は、朝起きてラボに行って帰ってきて夕飯を作って筋トレしてたまにゲームして寝る、健康的な日々をわりと楽しく送っています。研究がなかなか実を結ばなかった2年目と違って、夜中に車を飛ばしてオンタリオ湖越しの朝日を拝みに行くようなことも最近はありません。幸せの程度は目に見えませんが、豊かな自然と親切な人々に囲まれて研究に専念する、なかなか幸せな日々だと思います。この素晴らしい環境を得ることも維持することも、船井財団の援助なしには成しえなかったことなので、本当に感謝しております。この幸せが長く続くように、今できることを頑張っていきたいと思います。ではまた、次のご機会に。